

事例研究報告

**特別支援学校高等部生徒が
就労に向けて苦手な課題へ
取り組むための指導**

児童・生徒の実態

- ・高等部生徒 知的障がい
- ・言葉でのコミュニケーションができる。
- ・友だちと話をしたり手紙を書いたりすることが好き。
- ・自分の興味関心があることに対しては、会話が一方通行になりがちである。
- ・他の生徒に対し、できていないことを責めたり強い口調で言ったりすることがある。
- ・教員からの指導に対し、素直に聞き入れられないことがある。
- ・失敗や間違いがあると、動揺して独り言を言うことがある。
- ・興味がある活動とそうでない活動では、取り組み方の差が激しい。

保護者の願い

- 良好な人間関係を築いてほしい。
- 自分に合った職業に就いてほしい。

教員の願い

- 働くことに対し、興味関心を持ってほしい。
- どんな作業にも積極的に取り組んでほしい。

アドバイザーからの助言

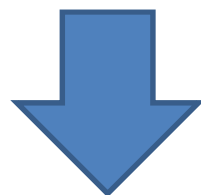
将来の就労に向けて、

- ①「活動のムラ」「意欲の低下」をなくす必要がある。
- ②好子を見つける必要がある。

との助言を受けた。

助言を受けての見直し

- ・自立課題を行い，苦手な作業にも集中して取り組めるようにする。
- ・苦手な作業へのモチベーションが高まるような好子を見つける。



指導目標を

『苦手な作業を含む3課題を35個以上20分以内に作り終えることができる。』と設定した。

同時に好子についても工夫していくことにした。

指導の手続き

<アセスメント>

① 苦手な作業を知る

・様々な自立課題に取り組み、一人でできる課題をピックアップする。ピックアップした課題のかかった時間や取り組みの様子から、本人にとって苦手な作業を見つける。

② 好子を見つける

・本人との話や普段の様子、保護者や関係者の話から、本人の好きな物をたくさん見つける。

アセスメントの課題の記録

得意な課題	苦手な課題
<ul style="list-style-type: none">・箸入れ・ボールペン組み立て・ボルト組み立て・醤油差し組み立て・チラシ封入・仕分け(色・形)	<ul style="list-style-type: none">・造花組み立て・チラシ折り

・得意な課題は素早く終わることができたが、苦手な課題は15分以上時間がかかった。

・本人も「造花とチラシ折りは嫌い」と言っていたが、途中でやめることはなかった。

指導の手続き

<指導1>

ノルマ課題30個

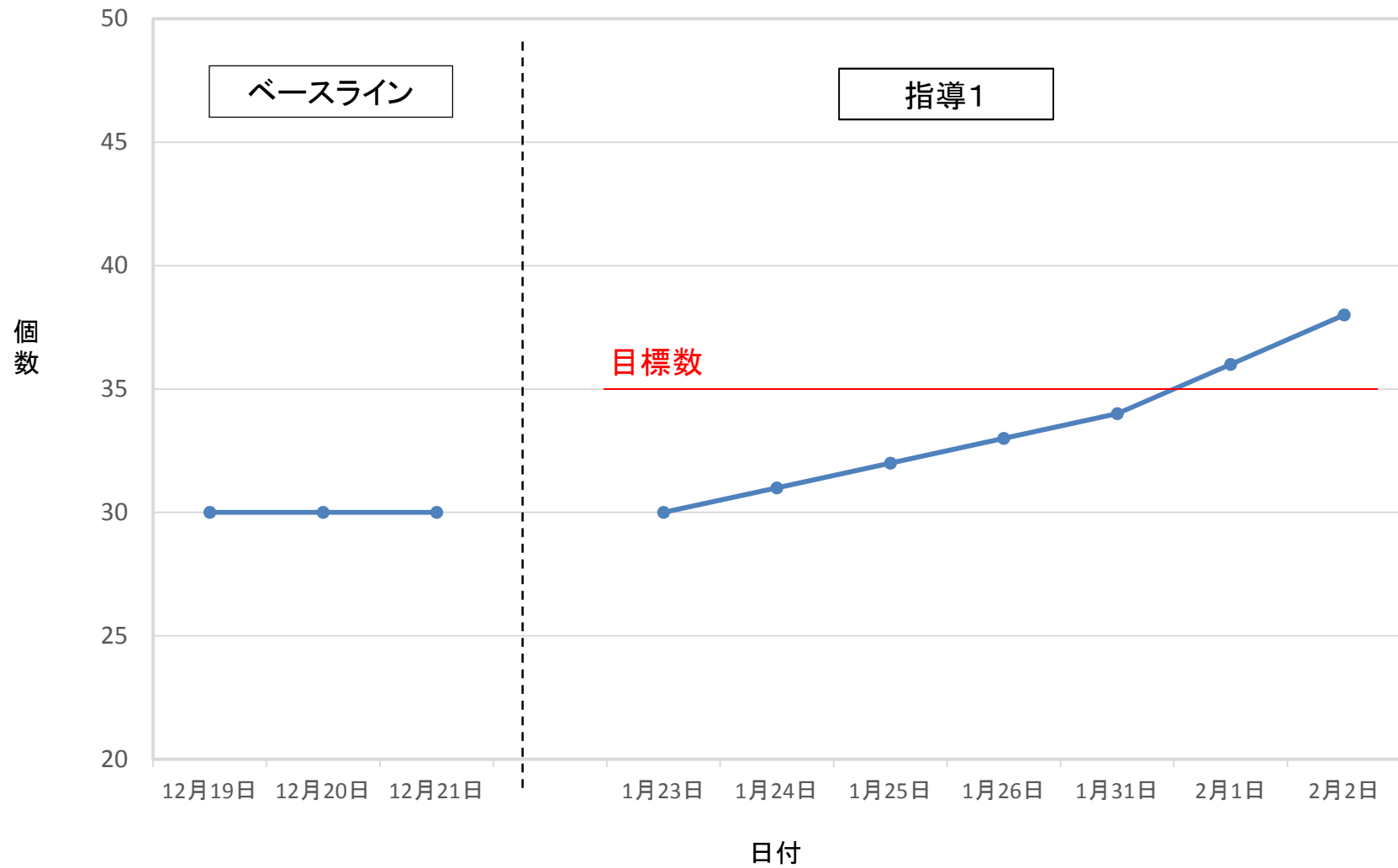
(造花10・チラシ折り10・箸入れ10)と

ボーナス課題20個(造花10・チラシ折り10)を用意する。

ルール

- ・上限時間は20分、ただし15分間は取り組む。
- ・ノルマ課題は必ず仕上げる。
- ・ボーナス課題はノルマ課題の後にできる。
(途中で止めても良いし、しなくても良い)
- ・課題数と同数のポイントがもらえる。
(ポイントは課題終了後に好きな物と交換)

自立課題を仕上げた個数



指導の成果

- ・自分なりに作業の仕方を工夫し、効率の良い方法を考えるようになったため、後半から作業数が増えた。
- ・最初は獲得したポイントをすぐに交換していたが、後半は何日かポイントをためてから交換するようになった。
- ・ポイントを交換できる頻度を上げたり、好きな物の種類を増やしたりすることで、苦手な課題にも意欲的に取り組んでいた。